

ビッグデータを活用した生活道路の交通安全対策 **ETC2.0**

ETC2.0により収集される速度や経路、急減速発生地点などの“ビッグデータ”を活用することにより、潜在的な危険箇所を特定し、効果的な交通安全対策を進めることができます。

○ビッグデータの分析内容

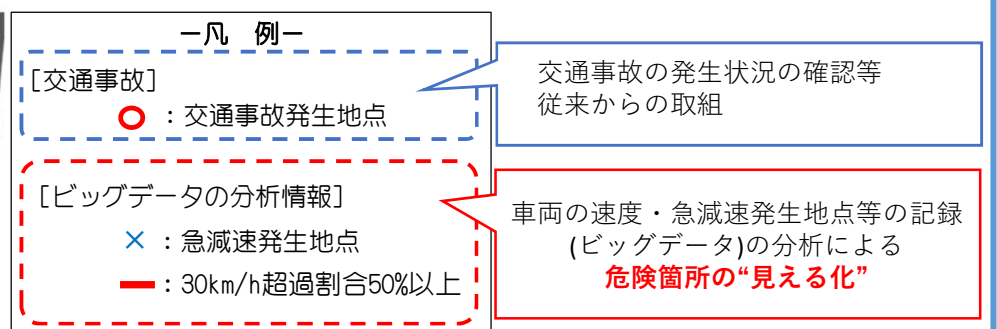
- ・平均速度
- ・30km/h超過割合
- ・急減速発生地点
- ・走行経路(“抜け道”ルート)

潜在的な危険箇所を特定
 ≪“見える化”≫

○対策内容

- ・走行速度の抑制
- ・通過交通の進入抑制

潜在的な危険箇所を含めた
 効果的な対策を実現



ビッグデータを活用した取組の進め方



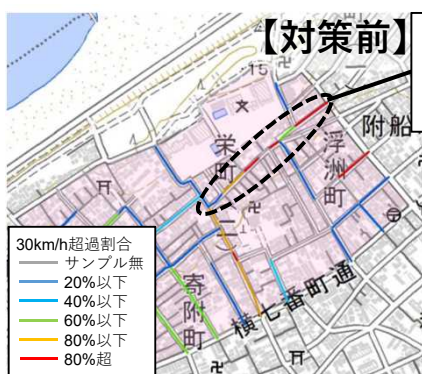
【地域の課題の把握】

- ・ビッグデータの活用により速度超過、急減速発生地点、抜け道等の潜在的な危険箇所を抽出
 ⇒効果的、効率的な対策の立案、実施が可能
- ・地域の関係者等からの要望等を把握

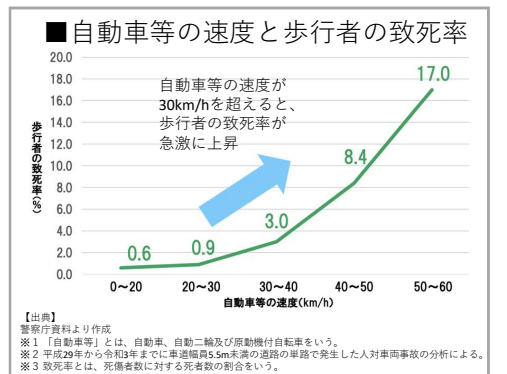
【交通安全対策の検討】

- ・地域の課題や関係部局からの意見等を踏まえ効果的、効率的な交通安全対策を検討

ビッグデータを活用した分析・効果検証 事例



重点対策区間として、朝の通学時間帯の通行規制と合わせたライジングボラード、狭く、カラー舗装を実施



30km/h 超過割合	エリア全体	25.2%
	重点対策区間	73.8%

エリア全体	22.7%
重点対策区間	28.6%

時速30kmを超える車の割合が、
 重点対策区間で**約45%減**